

2023年12月実績概要（メモ）

（2024. 1. 25）

定修もほぼ終了しつつあり、誘導品の生産も概ね増産品目が多数にのぼる。

1. 生産動向

イ) エチレン 477, 600トン

前月比 +1. 9% (+9, 100トン)

前年同月比 ▲0. 9% (▲4, 100トン)

生産増減に係る諸要因	＜前月比＞	＜前年同月比＞
日数増減	+ 3. 3 %	—
定修要因等	+ 3. 2 %	—
能力増減	—	+ 0. 2 %
稼働率変動	▲ 4. 6 %	▲ 1. 1 %
生産増減率	+ 1. 9 %	▲ 0. 9 %

稼働プラントの実質稼働率試算：前月84. 1% → 当月80. 4% ← 前年同月81. 4%

定修プラント：前月 なし → 当月 なし ← 前年同月 なし

2023年暦年生産量 5,318. 0千^ト 前年比 ▲1. 7%

ロ) 主な石油化学製品

前月比は、日数増や定修規模差等から、LDPE、塩ビ樹脂、EO、EG、SBR、BR、トルエンなどの16品目がプラス。HDPEのみは微減となった。

前年比は、稼働率要因や定修規模差等から、HDPE、PS、塩ビ樹脂、BRなどの11品目がプラス。PP、トルエン、キシレンなどの6品目はマイナスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比は、日数の増加や定修規模の縮小等からLDPE、PP、PSはプラス。HDPEは微減となった。

前年比は、生産調整が続く中、HDPE、PSは定修規模差や稼働率要因からプラス。LDPE、PPはマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

消費マインドの足踏み状態から、直近では改善の動きが見られている。国内の生産活動も11月時点ではやや弱含むも、12月はほとんどの製造業で増加予測が見られるとともに、生産活動のマインドも強気優勢が続いている。

汎用樹脂の出荷は、前月比は、年末休暇に伴うユーザー側の稼働影響もあり、LDPE、HDPE、PP、PSともにマイナスとなった。

前年比は、これまで出荷低迷が続いてきたが、企業物価指数の伸びも沈静化しつつあり、当月はHDPE、PP、PSで前年を上回る出荷となった。出荷分野別では、LDPE、HDPE、PPの3樹脂はフィルムなどの包材分野は未だに前年比マイナスが継続している。PSのみは包装分野が前月に続いたのプラスとなった。包材分野以外では、LDPEの中空成形分野、HDPEは射出成形分野やパイプ分野で増加が見られたほか、PPは射出成形分野での伸びが続いている。PSは雑貨・産業分野、FS分野においてもプラスとなった。

ハ) 輸出

域内の製品市況は原油価格の下げ止まりからの反転もあり、若干強含みとなるも、需要サイドでは様子見の姿勢が続いている。当月は、前月比はLDPE、PP、PSはマイナス。HDPEのみがプラスとなった。前年比も同様にLDPE、PP、PSはマイナス、HDPEのみがプラスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、前月に対して、LDPE、HDPE、PPで増加、PSは減少した。在庫率(季節調整済)は、LDPEは上昇、HDPE、PSは低下、PPは前月並みとなった。在庫水準としては、LDPE、HDPEは高め、PP、PSはほぼ適正レベルが続いている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		11月末	12月末
LDPE	+16, 800	3. 2	3. 5
HDPE	+ 3, 700	3. 5	3. 3
P P	+ 7, 900	2. 9	2. 9
P S	▲ 2, 000	1. 6	1. 5

以上